



### 3. テーブルワークショップの結果

#### 【Aグループ】

##### Aグループ参加者

大木さん・井上さん・谷さん・森下さん・塩足さん・加藤さん・松本さん・東さん・新井さん（ファシリテーター）

話し合いの最初に、「車椅子利用者や高齢者の方などがいるにもかかわらず、我先に乗り込んでくる人が意外に多く、エレベーターを本当に必要としている人が優先的に利用できない現実があります。エレベーターが設置されているからバリアフリーが解決されたとは言えません。」という実体験の実例から始まりました。そこで「心のバリアフリー」をテーマに進めることにしました。更に、このような実例から「心のバリアフリー」を考える際に、障がいのある人や高齢者などの日常的な実情をまず「知る」ことが第一であり、次に「気づく」こと、更にある人が街で困っている場面や自らが利用する際に使いにくく困ることなどに「出会う」ことを体験して理解を深めることが大切であることから、「知る」「気づく」「出会う」をキーワードとして掲げて話し合いました。例えば、バス利用の際に車椅子利用者が当たり前に乗ることができるためにはどうしたらいいか、どのようなお手伝いができるかについて話し合いました。あまり知識のない人が下手に手助けをしたりして事故を起こしてしまったり、そのことで責任が発生したりということを考え、手助けをすることを躊躇してしまうこともあります。そこでバスの運転手や介助者など専門家に任せておくことになり、関わらないほうがいいということになりがちです。しかし、自分でももしかしたら関わることがあるかもしれないと思うことが大事で、「私に何かお手伝いすることがありますか？」と話しかける勇気をもつことが大切だという意見がありました。また一方、周りの人が手助けをするからノンステップバスでなくてもいいということにはなりません。ハードのバリアフリーがなされていなくても心のバリアフリーさえあればいいのではないかと理解されていたとしたら、これは課題解決にはならないという意見がありました。また、ハードバリアについて、この会場の建物にも各階に車椅子トイレがありますが、実際に利用してみると、障がいの状態の違いで便座への移動が固定式バーにより困難であったり、人工肛門の方そして障がいや高齢によりおむつを利用している方のための設備がなかったり、オートドアでないために一人で車椅子で出入りするのが困難で、トイレに入るのに人の手助けを必要とする心理的な負担があるなど、施設づくりのあり方についても関心をもってもらいたという意見がありました。

#### 様々な意見

##### 「全般」

- ・心のバリアフリーと簡単にいうけれど、それが難しいから問題があるのだ～。行政やそれに気付いた人は、それなりの対策、つまり対処療法？のようなものも必要なのかな？
- ・心のバリアフリーとは言いますが、具体的には難しそう。
- ・心のバリアフリーはまちの文化度を示すのでは。
- ・BF（バリアフリー）は街の標準装備にしたい。（特別なことでなく）
- ・施設整備は多少遅れても、心のバリアフリーは早めに高めたい。
- ・入院等でさらに実感。

- ・ハード面のバリアフリーは大前提だけど・・・。
  - ・障がい者と接することに慣れていない。
  - ・行政の人 「生の意見を聞くのが大事と実感」。常にその気持を大事にして欲しい。そしてその努力を続けて欲しい。
  - ・交通バリアフリー基本構想ができたあと実際に事業化されるときにも市民参画ができるようにしたい。
- 「知る」
- ・障がい者じゃなくて「健常者」が知っていれば（理解していれば）(バスの乗り降りなど)
  - ・図書館のハンディキャップサービス（宅配）など知らない人も多いが充実している。
  - ・市民部会（交通BF） おしえられることの宝庫。男女トイレ左右、請願者・正眼者、点字案内の角度等。
  - ・たづくりの車椅子マークのついたエレベーターはどうしてできたか？
  - ・車椅子対応のバスが増えているのに知らないのではないか。
- 「気づく」
- ・新たな発見「表やグラフは点訳できない。」よく考えれば当然なのに、今まで気付きませんでした。
  - ・気づいたことを気づいた人が声を出して伝えていく。
  - ・エレベーター ほかの元気いっぱいの子どもたちなどが集まってしまい車椅子の人が乗れない。
  - ・連絡先にFAXが入っていなかった。
  - ・「たづくり」のトイレ（車イスで使える）の設備がよくない。オストメイトがない・・・。
  - ・トイレ（扉が手動、手すり、便器の位置など不便） 改善してほしい。
  - ・階段は下りの方がこわい？エスカレーターも昇りしかないことが多い。
- 「出会う」
- ・子どもの頃から障がいをもつ人と接する機会が必要。 教育。
  - ・車椅子の方 バス乗車 調布ではみたことがない。江戸川では2件確認済。
  - ・まちで障がい者を見かけたらどうしたらいい 「何かできることがありますか？」本人の意思を確かめる。



## 【Bグループ】

### Bグループ参加者

宮川さん・岩澤さん・堀江さん・伊東さん・戸井田さん・大河さん・藤山さん（ファシリテーター）

わかりやすいことから話し合おうということで、まずはハードのバリアフリーに関する意見から出し合いました。テーブルには視覚に障がいのある方、聴覚に障がいのある方、車椅子を利用されている方がいらっしゃいました。その方たちからの体験的なお話がとても参考になりました。「車椅子利用者の場合、バス停留所の乗降スペースが狭く、バス寄付き部では段差があるため一旦車道に出てから迂回しなければならない。」「歩道にある擦付けスロープのために車椅子が車道側に傾いてしまう。」「歩車道段差がないエリアの不法駐車や無秩序な放置自転車のために通行が阻害される。」「駅ホームの階段脇の通路が狭く危険。」「また、「車椅子トイレはだれでも利用できることが望ましい。」という意見の一方、「車椅子利用者の優先性が重視されるべき。」という意見もあり、「そもそも車椅子トイレの設置数が少ない。」という意見もありました。更に「大型店舗のレストランテナントのあるフロアでは現在は車椅子トイレが設置されてはいるものの開店当初はなく、当初から設備がなされるべき。」「バリアフリーについて役所に相談したいと思ってもどこに行けばいいかわからない。」「バリアフリーの課題をデータベース化して様々な相談に対応できる解決の手段として取り組むべき。」「北欧の事例では公共トイレなどのスタイルが標準化していて外国人や様々な障がいのある人にもわかりやすくなっている。」「障がいのある人たちが健常者に気付いてもらえるように話し合える、このようなワークショップの場やしぐみをもっとあればいい。」という意見がありました。

例えば点字ブロックの設置の仕方でも人の動きとは無関係に長い直線と直角に曲がるポイントなど、無機的に施工されていることが多いのですが、これも利用者の意見を取り入れて施工されるべきです。Bテーブルで出た意見の多くは、施設を計画し建設する段階から利用者を交えて進めていくことが重要であることが話し合われました。

### 様々な意見

#### [バス・バス乗場]

- ・調布のバス乗り場からバスに乗るには段差がとてもある。
- ・バスから降ろされる場所によって危ない。（視覚障がいがある場合）
- ・ツーステップバスは乗るのがたいへん。はやくなくなって欲しい。

#### [自転車や車のマナー]

- ・駅前の自転車が沢山あり歩きにくい、不法駐輪の撤去をしてほしい。
- ・車椅子利用者にとっては危険（自動車、自転車）に一番気を使います。安全であることが大事です。

#### [踏切]

- ・踏切に危険を感じる。人のかたまりで、車椅子で動けなくなりこわい思いをしている。
- ・介助者の車椅子を押す人の経験がないと踏み切りに挟まってしまいそうな経験がある。介助する人にもある程度の知識が必要。

### [トイレ]

- ・飲食店のある所には必ず車椅子トイレ設置を！
- ・「あくろす」のトイレは入口が小さい。もっと大きければ小さな車椅子の人も利用できる。
- ・だれでもトイレが一番利用したい人が使いたいとき使えなかったという声を聞き、一工夫必要だと思いました。
- ・トイレについて、内部障碍(特にオストメイト)の人が増えてきている。障がい者用トイレの増設を！人目につく所に設置してほしい。
- ・車椅子対応トイレ、いろいろなトイレがあると良い。(アピール力がある。)
- ・新しい施設をつくる時は必ずトイレに配慮して！トイレの操作がいろいろで使いにくい。統一を！

### [駅の階段・ホーム]

- ・駅のホームの階段のある所はとても狭く、歩いてすれ違うのもこわいから、車椅子ならもっと危険なのではないか。
- ・駅の階段、人が多過ぎて動けないことがある。十分な広さが必要。

### [点字ブロック]

- ・点字ブロックの貼り方を歩きやすい自然な経路で。
- ・(災害時などに)音声で逃げる方向がわかるといい。
- ・(駅ホームは点字ブロックがあっても)ホームが狭く危険。
- ・たづくりの点字ブロックは丈夫そうだが、足には痛い素材。一工夫できないか。

### [歩道]

- ・歩道にななめの切り下げなどがあって困っています。
- ・歩道の巾が狭いところ。すれちがう時に車道におりて危なかった。
- ・歩道に段差がないと車との関係が難しい。(路上駐車・すれちがい)
- ・電柱、電線の地中埋設を進めて欲しい。(地震時危ない)
- ・仙川の湯けむりの里までの道が歩道がない上に車がすれちがうので安心して歩けない。

### [その他]

- ・室内の表示。(音だけではわからない)緊急時の対応。
- ・行事などのある時、あらかじめ手話があります等書いてあると参加しやすい。

## 課題解決の方法

### [記録する]

- ・建設部門で日頃感じたり要望のあったバリアフリーの意見等を蓄積して、様々な部門へ情報提供していくと役立つのではないか。
- ・一つの建物を造った時の経験を残して記録していく仕組み。

### [標準化する]

- ・情報のバリアフリー。外国人の方にも伝わる工夫が必要。

・北欧では公共施設のトイレの使い方は全て共通している。標準的な使い勝手を公共施設やデパートなどは一致しているほうが良いのでは。

#### [話し合う場やしぐみ]

- ・色んな意見を話し合っ理解や調整ができる場が必要。
- ・岩手県では障がい者の方が公共施設を設置する時、アドバイザーとして登録しており、様々な点で当事者の意見が活かされている。
- ・公共施設等を建設する時、あらかじめバリアフリーの専門家が行政にいて相談、提案などに応えていくようなしぐみがあっても良いのでは？

#### フリートーク

「標準化するという意味をもう少しお話いただけませんか」

「例えばトイレは新しい技術の進歩により便利な衛生設備が施されていますが、使う側にとってその操作に迷ったり分からなかったりして、必ずしも使いやすい設備ではありません。そこで、最低限のだけでもわかりやすい操作方法が認識可能な標準化が必要なのではないかということです。」



## 【Cグループ】

### Cグループ参加者

小山さん・江刺さん・服部さん・長山さん・池谷さん・徳井さん・小林さん・大塚さん（ファシリテーター）

「計画段階から当事者の参加が必要。」「道路などに於いて利用者に危険なポイントの情報が分かりやすい標識やマップが必要。」「タイムリーな情報を得られ、利用者からも書き込みができるようなホームページを活用。」といった多岐に渡っての意見や話し合いを通して双方向での情報交換が大切であるとの認識が参加者の中で一致し、「情報交換の場をつくろう！成功例も知りたい。苦情もOK」ということメッセージを掲げました。

### ポイント

情報交換の場をつくろう！成功例も知りたい。苦情もOK

1. 計画が固まる前に当事者が参加する。
2. 危ない場所がわかるようなマップをつくる。
3. ホームページ等の活用。

### 様々な意見

- ・歩道の材質、インターロッキングはだめ。
- ・危ない道にはサインを付ける。（すぐには工事できないなら 出来ることからやる。車椅子危険マップ。
- ・話し合いの場を設ける。当事者でないとわからない。
- ・国領イトーヨーカ堂やあくろすなど、最近は早めに意見を機会が増えてきているが、当事者が参加するタイミングが遅い。
- ・行政と市民の距離感。
- ・飛田給の大歩道橋、手すりはあるけれどスロープがあるので使えない。 決まったことを変更するのは難しい。
- ・ラーメン屋さんにしても障がい者が実際に来ないとわからない。 個人のクリニックはひどい。
- ・マンションの階段に手すりが無かった。高齢者に言われて初めて気付いた。 色々な事例を紹介。情報の共有。
- ・バス乗り場のポール、拡げてもらった。小田急バスの乗車拒否。
- ・マンホールのわずかな段差で転んだ。誰にでも起こる。
- ・市役所の通り、歩道が狭い。健常者でも無理。管理者がバラバラ。
- ・放置されたオートバイ。連絡してもたらいまわし。
- ・電柱が災害時に倒れるのでは。避難道路。
- ・道路、出来ることから、まず市民の生活道路のバリアフリーをやってほしい。段差の平坦化。マンホール、水道栓の凸部を平らに。
- ・道路のマンホールにつまづいて転んだ経験あり。
- ・調布駅から福祉センターへ行く道のでこぼこでお年寄りがよく転ぶ。でこぼこの道をなくしたい。
- ・ヘルパーとして参加。バスの乗車拒否。災害時の問題は？

・国領に来て一年になります。日々、町に出ていると色々な事を感じます。(電動車椅子使用者)

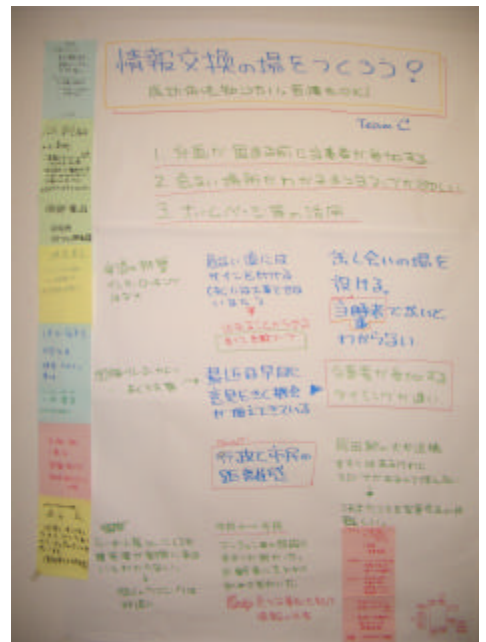
### フリートーク

「行政が当事者の意見を取り入れる際に、その当事者にコンタクトを取るにはどうしたらいいでしょうか。例えば当事者バンクとか？」

「まちのバリアフリー部会のようなNPOが当事者ネットワークのようなものをつくっていくのも方法だと思います。」

「日常的に市民やNPOと行政の距離感をなくし、常に情報交換が可能な環境をつくっておくことが大切だと思います。」

「当事者というのは、障がい者だけではなく市民全員が当事者です。また、様々な体験をもった人が当事者として情報交換できる場をつくる必要があると思います。公共施設だけでなく民間建物にもその情報が活かされることも大切だと思います。」





## 【Dグループ】

### Dグループ参加者

菅谷さん・藤山さん・長岡さん・大河さん・岩井さん・上條さん・川添さん・大久保さん（ファシリテーター）

進め方として、話し合いということに重点を置きました。特にテーマを絞るということではなく、分かりやすい体験からでてくる気付きの話を展開させました。まず、「エスカレーターにおいて昇り専用のもが多いけれど、実は足腰の弱いひとにとっては、降りエレベーターの必要性が理解されていない。」  
「右側歩行している二人並行用のエレベーターが多いが、左腕が弱い人にとって都合が悪く、せめて左側歩にしてもらいたい。むしろどちらの手でも手すりベルトを掴める一人用のエレベーターが必要。」  
といった意見、「だれでもトイレは文字どおりだれでも利用できる反面、どうしてもこのトイレでなければならない人が利用できない現象もでている。この、だれでもトイレというネーミングを改めたほうがよいのでは。」  
「そもそもトイレ自体のスペースが狭いのではないか。トイレは概して建物の設計上の優先順位が低いため、これだけあればよいといった既成概念でつくられることが多い。逆転の発想でもう少し広げることで割りと解決できることがあるのでは。またそのような発想を共有できるしくみも大切。」  
「歩道の段差の問題がなかなか解決できていない。」  
「バス会社によって利用者に対する気遣いや対応が違う。民間会社の社員教育など意識の向上を図る必要がある。」  
「商店街の歩道がタイルなどできれいに舗装されているところがあるものの、狭いこと、車道との擦り付けのこと、不法駐車などの問題は解決されていない。」などの意見が出ました。

### 様々な意見

#### [エスカレーター実は下りが必要]

- ・高齢者は障がい者とおなじで、転んだらお終い。
- ・追い越す人は左側に。利き手」をベルトにおける右側レーンには止まっている人用に。
- ・むしろ一人用のエスカレーターがいい。
- ・エスカレーター、下りが大切。足が弱い人は下りこそ大変なのです。

#### [バス・意識が低い]

- ・バス会社によってドライバーのマナーが悪い。
- ・某バス会社から「車椅子利用は事前に連絡するようにつ！！」と言われた。これってバリアそのもの。
- ・バス会社の社員教育の問題。

#### [歩道の段差]

- ・旧甲州街道の歩道の歩きにくいこと。傾斜部分と電柱の立ち方、標識の乱立など、更にそこに自転車が通る。危険だ。
- ・歩道の段差！！旧甲州街道ぐらい何故段差ゼロにできないか。
- ・旧甲州街道の歩道段差が改良に取り組まないとお客さんが来ない。
- ・電柱の埋設化何故進まないのか。費用負担、税制度いろいろある。

[だれでもトイレ、ネーミングが問題]

- ・トイレの必要スペースの概念を変える。
- ・使いたい時に先に使われてしまう。ネーミングとのギャップ。

#### フリートーク

「トイレのスペースについての意見がありました。なるほどと思いました。例えば調布は建築床面積にトイレの部分は算入しないといったトイレ特区という考えがあってもいいのではないのでしょうか。そのことで随分トイレの問題が解決できると思います。」

「いいですね。トイレ特区というネーミングがいいですね。やる気がでます。」

「問題解決のための特区という考えは良いと思います。」

「トイレに決めてしまうのではなく、何を特区とするかもう少し話し合っ決めて決めべきだと思います。」

「トイレは必要なもの。現行法の範囲であっても使いやすいトイレにしていかなければならないと思います。特区にしてしまうのは如何かと思います。」

「私は車椅子利用者ですが、この会場に来る際に、あるバス会社が運行するノンステップバスに乗車拒否をされました。」



## 【Eグループ】

### Eグループ参加者

成瀬さん・武藤さん・木下さん・愛沢さん・浅利さん・宇津木さん・時津さん・岩本さん・鉄矢さん（ファシリテーター）

ハード面からスタートしてソフト面からのことを通して、最終的にノーマライゼーションを実現するためにはどうしたら良いのか、勿論、結論ができることはありませんがその方向で話し合いました。まず、ハード面ではトイレの広さと使い勝手と多機能トイレの位置づけについて話し合いました。課題としては、障がいの種類や程度に合った色々なパターンがあったほうがよいという意見と、視覚に障害のある方からは均一な形式であまり広すぎても困るという意見がありました。つまり、一つの答えがあるわけではないことがわかりました。他に駅舎のことなどいろいろな意見が出ました。結論的には3つのことにまとめました。ひとつめは、心のバリアフリーということが言われていますが実際どうやって実現したらいいのかについて話し合い、当たり前レベルのハード整備なしにソフトは実現しないということです。つまりハードが当たり前前に整備されると誰でも自立した生活が可能になって、障がいのある人とそうでない人との交流が促進されます。そのことで教育の場でなく、実生活でこそ心のバリアフリーが育まれるということです。ふたつめは、「たづくり」や「あくろす」の話題がでていますが、整備をした後の問題点が挙げられます。建物でも道路でも計画段階からの当事者の意見を聞きながら進めるべきであるということです。つまり当事者との協議により納得というか合意形成が図られ、お互いに有益なまちづくりが実現するということです。最後に、立場や年代の違いを超えてこのワークショップのような場で話し合うことが重要であることが挙げられました。従いまして、まちのバリアフリー部会のようなNPOの役割を再認識しエールを送りたいと思います。

### ポイント

1. 当たり前レベルのハード整備が必要
2. これから進めるものには計画段階から当事者によく聞け
3. 良い会だ、もっと続けてほしい

### 様々な意見

- ・ 困難な道路があり。マンホールフタの上で危険あり。雨天の場合。
  - ・ 子育てと農業。誰もが気軽に助けたり助けられたりできる町がいい。
  - ・ 大学で建築の研究をしています。駅舎、特に改札システムに興味有ります。バリアフリーには素人。
  - ・ 視覚障がい者です。ハイブリットカーがこわいなーと思っています。
  - ・ 本当にみんなが使いやすいものにするにはどうすれば？
  - ・ 子どもが肢体、知的とも障がい。車椅子で介助していて気になることなどお話したい。
  - ・ 生涯学習をすすめるうえで何が必要なのを知りたい。
  - ・ 今日みなさんの生の声がきけることを楽しみにしています。
  - ・ 染地に住んでいます。放置自転車問題。パチンコ店が増大していることに危惧しています。
- （以上、自己紹介と関心があることなどの意見です。）
- ・ トイレの問題で、（車椅子利用者だけでなく）認知障がいの高齢者の場合も同じで、オムツを替える

場所でもある。使いやすいトイレ、いろいろなニーズ。

- ・1歳半の子ども、オムツを替えるトイレがない。マクドナルドはあった。
- ・トイレを先に整備できないか？
- ・トイレのこと、多種多様なバリア、障がい者、高齢者関係ない。人間ならバリアは取り除けない。バリアを楽しく、取り除くのではなくポジティブに。介助（男 or 女）いろいろ不自由なことも、めんどくさいことも、不便なところを理解。
- ・歩道の緑化スペース スペース（すれちがい） 環境 工夫が必要でしょう。
- ・誰もがやってもらったり、やってあげたり。助けてもらったり、助けたり。当たり前前の社会に。
- ・段差0センチ、1センチ、2センチ、命にかかわることが落としどころ。
- ・市役所のスロープ、屋根がつながっていない。なぜ？
- ・押しボタン、音で誘導。
- ・ホームの点字ブロックについて、警告ライン、エスコートライン。
- ・当たり前（が大事）、周りも本人も気をつかう。
- ・建築 ハード・・・たくさん出てくることが、ソフトがついてくる。
- ・バリアフリー建築、駅舎、改札が不便にしている。どこからでも入れるといい。
- ・平成13年の社会教育策定委員会、人の目線でものを見る。第1回参加者。道路・・・少しずつ変わってきている。改善は少々であるが感じる。
- ・どっちが先ではない。障がいの違いで求めるものの違いがある。「出会い 目線」をつくる
- ・障がいの種類によってニーズがこれほど違うのか。ひとつの基準ではマチガイ。実感中。段差、音量、気づかなかった自分。
- ・心のバリアフリー、すべての人が使いやすいように。健常者が使いやすい。誰でも・・・本当に使いたい人が使えない状況。歩道に自転車。
- ・建物が建ってからではむり。計画段階から。税金のむだにならないように。
- ・自転車で通っている。歩道が狭い。乗ったり降りたり。踏切の段差、動きやすい道、街、活かしていきたい。
- ・第1回も出た。交通バリアの市民部会、親の会。道路の段差、駐車場の入口斜めになっている。平らになれるか？
- ・紙おむつ・・・トイレの関係、行動の限界。公共、駅、3時間が限界。
- ・たづくりで消失した大きなおむつ台。

## フリートーク

「補足ですが、当事者の意見が反映されていないハード整備では、やはり税金の無駄遣いだったのではという意見は言っておいたほうがいいと思って発言しておきます。」

「バスの問題ですが、車椅子マークがついているバスにもかかわらず乗車拒否されたというお話が先ほどありましたが、実際に乗車拒否ができるのでしょうか。きちんと会社に報告したほうがいいと思います。そうしなければ改善されないとします。」

「交通バリアフリー基本構想策定委員会にもそのバス会社の関係者がメンバーに入っています。実はこの問題が起きていて、きちんと社員教育のことを含め話した直後ですので、今日のこの話はとてもショックです。改めてしっかりと伝えたいと思います。」

「川崎の麻生区に住んでいましたが、そのときもバスの運転手のマナーが悪く、バス会社にクレームを

つけたら、多少は改善されました。」

「調布の生活道路は汚い。バリアフリーを語る前に自分の前の道路をきれいにするところからはじまるのではないのでしょうか。」

「生活道路の段差や凹凸の解消が急務です。道路管理者が国、都、市と様々ですがきちんと連携をとって対応するべきです。予算がつくまで待つというのではなく、やれることからやるのが大切です。」



#### 4. アンケートの回答

今回のワークショップはどちらでお知りになりましたか？番号に をお願いします。

- ・ポスター・チラシ・・・2
- ・案内をもらったから・・・1
- ・その他

「調布まちづくりの会から」

「ホームページで詳細を閲覧しました。」

下記のプレゼンテーションについて自由にご意見、ご感想をお願いします。

##### ・まちのバリアフリー部会の活動と提言書について

「実現へ向けての指針はあるのですか？」

「パワーポイントをつかっての説明はとてもわかりやすかった。大変な労作であり敬服しました。私も1回だけ駅ウォッチングに参加しました。」

「よくまとめてあります。活動もよくやっていると思います。」

「大変詳細に検討された内容で之を一つ宛実現出来ることで町が住み良くなることと思います。唯 実施、国、都側との調整に相当力を注ぐ要があるので、担当の方々の努力工夫を 」

##### ・調布市福祉のまちづくり条例概要説明・福祉3計画一部改正について

「わかりにくい資料で、話との連動がつけにくかった。」

「パワーポイントもレジュメもなしの説明だったので、非常にわかりにくかった。市民への説明としては不親切である。行政の方にはもっとわかりやすい説明をするよう努力、準備もお願いしたかったとお伝えください。」

「ハード面での整備は逐年実現すると思うが、先ず実施の結果が見える迄に時間がかかるので、道路について先ず目に見える歩道の平面化等、道路の平坦化、歩道の改善をやって欲しい。」

##### ・調布市交通バリアフリー基本構想策定状況について

「資料といい、良かったように思います。」

ワークショップに参加されていかがだったでしょうか？自由にご意見、ご感想をお願いします。

「時間は短いのか適当なのかよくわかりませんが、どのように今後につなげていくのか？よろしく願います。」

「とても良い話し合いができていたと思います。ありがとうございました。提言書をまとめられたことはすばらしいと思います。こんどは絵本をつくられるとのこと、期待しています。」

「第2回目のワークショップのテーマが具体的で意見交換が活発。バスの問題、道路の問題もっと住民と交通事業会社と行政の懇談会を設けて。」